口語詩句９月総評　　龍　秀美　　202309

＜総評＞最近の作品の中には私が初めて目にするカタカナ語があり、意味が分からないためスマホ片手に調べながら選考をすることもたびたびです。無限と言われるほどの情報が飛び交う現代は特殊な流行語や専門用語的なものもあり、しかもそれが流通する期間も短いようです。そういう言葉が短詩形の中でどれほどの効果を発揮するのか疑問に感じました。ネットなどで調べれば一応のことは分かりますが、文芸作品の中で使う場合は慎重さが必要ではないでしょうか。

どちらでもないに丸して夏休み

音無　早矢　埼玉県
――何気ないアンケートに答えて、何気なく始まる夏休み。普通ということとその平和。

ゆくゆくは未完成になる国家

合川秋穂　東京都
――国家はいつも変化している。時代に応じて変わらなければ生き残れないのは人間の人生と同じだろう。

背骨からプラハまでの距離を測る

まちりこ　埼玉県
―移動するということは自分という個人の肉体がそこまで行くということ。抽象的な距離ではないのだ。

自閉症の甥っ子は
今日も鬼の私から
笑顔で全力で逃げ回る

ビスコ　愛知県
――相手へ主体的に働きかけにくい自閉症という存在は、手を差し伸べればとてもイノセントに対してくれる。立場とかは問題じゃない自由さで。

後悔は

状態じゃなく動作だから
幸せよりも海と近しい

青野陽　熊本県

―意識は身体の反応より 0.5 秒遅れるそうだ。つまり生き延びるために、それだけ身体は原始に近い。幸せという抽象よりも後悔という動作の方が。

ノンブルを振らずにおけば
文字たちの嵐の時の隠れ家になる

植村　日向　愛知県
――ノンブルを振るということは位置を規定するということ。アナログに近いだろう。振らずにおけば自由に動ける。つまりデジタルの無責任な自由さかも。

風のひゅー炎のぼわぁ水のじゃー
人にはなにがなにができるの

あお　奈良県
――人にできるのはじゃんけんくらいかも。パーのじゃん、グーのけん、チョキのぽん。

蚕ふしふしふしと不死噛み砕く

杢いう子　佐賀県
――生々しい音韻の発見。やがて我が身と引き換えに美しいものを吐き出す蚕たちだからこそ。

粛々と林檎を食べる園児たち
---
im　沖縄県
――無心に林檎を齧る園児たち。桃ではなく林檎でないと、そして漢字の林檎でないと、この粛々感は出ないだろう。

フォト　ショッ　プ
「プ」できみだけを消してやり
いやに笑顔のわたしが残る

四方山水面　愛知県
――きみを消したのになぜか笑っている私。自由自在の画像修正技術もそこまでは修正できないことに気付く。

股から血を流して
生きてるって言ったら
金星人から二度見されそう

うろ仔　北海道
――どんなに文明が進歩しても、女にとって潮の満ち干はなくならないのだろうか。

落ちていた手帳を拾う明日九時に
ハチ公に行く予定ができる

猫背の犬　山口県
――わざわざ拾った手帳を届けに行こうとするこの気持ちはなんだろう。だから人生って面白いのか。ドラマができそうだ。

文庫へと溶け込むほどに
明朝が創英ポップに蛙化現象

土居　尚子　東京都
――細い明朝が太字の創英ポップになった文庫は読みにくいんじゃないか。いや老眼には読みやすいか？百年の歴史ある明朝体が変わるとしたら蛙化現象って偉大だ。

パーソナルスペース日傘で保つ街

花野　木春　東京都
―― いままでマスクでできていたパーソナルスペースが日傘に変わった。人の意識が変わったのかも。

まぜまぜこまぜ
おおまぜこまぜ
まぜまぜちゅうまぜ
ちゅっとしますぜ

白藤　さくら　神奈川県
―― 歌謡や商業コピーのなかでも意味のわからないオノマトペや語呂合わせが大きな力を持つときがある。どこかに入れたい気がする。面白いし強い印象がある。

御茶碗に
ワインを注ぐなと
犬吠える

紅好人　東京都
――こういう言い方ができるから詩は面白い。一瞬で状況が分かる。ここは犬でないと猫は知らんぷりだろう。

一人の人と書いて
僕等は大人になるのでしょう

山下　泰史　福岡県

―発見。